

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 176 号 (2024 年 11 月号)

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



2020 年 11 月から私たちの教会で仕えてくださったブルース&パメラ宣教師ご夫妻が、今月帰国されます。この 4 年間で、私の「ハロ〜」「グッモ〜ニン」の発音が上達し、ジョークにも磨きがかかり、教会はアメリカナイズされたのです。教会としては寂しい限りですが、先生ご夫妻からいただいたたくさんの愛は、私たちの教会の宝です。お二人のアメリカにおける新しい歩みのために、心からお祈りしています！



今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。 (2024.11.01)



ウソをつかなくてもいい世界

末娘(2 歳) ; お父さん、テレビ見て良い？

私 ; まだダメだよ

末娘 ; お母さん、テレビ見て良い？

妻 ; お父さん、なんて言ってた？

末娘 ; 良いって〜

私 ; え！・・・



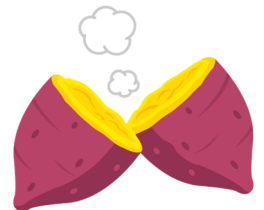
“嘘をつけ”なんて教えていないのに、2 歳にして嘘つきの仲間入り。でも彼女のウソは、まだまだ可愛いですね。私たちは小さい頃から「ウソつきは、泥棒の始まり」「ウソをついたら舌を抜かれる」と聞かされてきました。オオカミ少年やピノキオなどの童話を通して、ウソをつくことは悪いことで、後々大変なことになると教えられたのです。

ところが私たちはすぐにウソをついてしまいます。しかも成長すればするほど、ウソが巧妙になり、ウソにウソを重ねてしまうことがあるのです。また幼いときは、ウソをついたら胸が痛んだのですが、大人になるとウソをついても平気で、ウソをついても仕方ないと開き直ったりすることもしばしば。どこかの国の大統領候補は、フェイクニュースをあたかも事実であるかのように発言しているのです。

では私たちは、なぜウソをつくののでしょうか。それは自分の思いどおりにするためであり、自分を守るためですね。私も自分の思いどおりなるために事実を曲げてしまうことがあるのです。また何かミスをしたとき、どうにか罰を免れるために、とっさにウソをついてしまうこともあります。このようなウソって、大抵すぐにバレますね。不思議なぐらい笑

一方、ウソが蔓延している世の中で、ひとり真実であるのは難しい。多少のウソは社会を生き抜き、人間関係を円滑に進めるために必要なかもしれません。しかしウソをつき続けることに疲れてしまうこともあるのです。

長年、ミッションスクールで先生をしておられた安積力也氏が、ある講演会で一人の女子学生のことを



を紹介されました。彼女はとても真面目で、誰の目から見ても良い子。ところが彼女は母親との関係で深く傷つき、母親の言うとおりにしか生きられなかったのです。そのため自分にも人にも偽って生きてきました。そんな彼女が高校生活を通して分かったことがあったと安積先生に話してくれたそうです。





毎朝の礼拝の時間、あの時 私は一人で祈るようになったんです。皆の中にいるのに安心してひとりになれて、祈ったんです。それで初めて知った世界がありました。それは、嘘をつかなくていい世界があるんだってことです。全てをご存知のまなざしがあるんだな、そのまなざしの前では嘘をついてもしょうがない。そのまなざしの前では嘘をつかない自分でいれる。【安積力也著「〈出発する人間へ〉」東京基督教大学出版】

これを受けて安積氏は「【祈りの世界】とは【嘘をつかなくてもよい世界】であること。自分に対してですら嘘をついていること、皆さん、あるでしょう。…でも、そんな嘘をつかなくてもいい世界。その世界で自分と向き合うことによって、彼女は『本当の私』というものの感覚を見出したのです」と話しておられました。

【祈り】とは、願いを神さまに伝え、無理やりにも自分の願い通りにしてもらう手段ではないのです。女子学生は祈りの中で、【嘘をつかなくてもいい世界】があることを悟ります。すべてをご存じの神さまを知った彼女は、神さまの前で良い子でいることをやめ、嘘・偽りのない自分をさらけ出すことができたのです。これによって彼女の傷ついた心は癒やされます。

私たちもまた【嘘をつかなくてもいい世界】に憧れているでしょう。心に思っていることをそのまま語り、それらをそのまま受け入れてくれる世の中だったら、どんなに良いかと。けれど実際はそうではない。だからたくさんの仮面をかぶって、自分ではない自分を演じ続けてしまうのです。私もそのように自分を演じて、疲れ切ったことがありました。

自分の心の闇を感じながら、それを閉じ込めて、努めて明るく振る舞っていたのです。また神さまの前でも、正直な自分であることができず、自分を偽っていました。この時期の私は、とても辛く苦しかったです。

そんなとき私は聖書の中の詩篇を読みました。詩篇には、昔の信仰者たちの祈りがたくさん載っているのです。その祈りの一つひとつは全く形式的ではありません。自分の素直な気持ちを赤裸々に神さまに話しているのです。時に“自分を苦しめる人を呪ってください”とまで祈っています。

私はそれらの祈りを思い巡らしながら、神さまだけが私の心をすべて知って下さること。どんなにヒドい私でも、そのまま受けとめて下さること。そして神さまの前には偽る必要がないことが良く分かりました。このことを知ってから私の心は少しずつ自由にされ、神さまの前に何でもオープンに祈ることができ、人の前でも少しずつ仮面を取ることができるようになったのです。

私たちを造り、愛し、私たちのすべてを知って下さる神さまの前に、私たちは何も隠す必要はありません。このことを信じ、素直な心でありのままを神さまに祈るなら、私たちは【嘘をつかなくてもいい世界】があることが分かり、「本当の私」という感覚を見出すことができます。

あなたは私が歩くのも
伏すのも見守り
私の道のすべてを

知り抜いておられます。[聖書]



- 礼 拝 毎週日曜日 10:30~12:00
- イズミン・キッズ 毎週日曜日 9:30~10:20
- おやこ de えほん 毎週水曜日 10:30~12:00



* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。